

第 6 章 成果の発信・普及

I 本校独自のSSH広報周知活動

本校はSSH事業を経営の柱としている、おそらく全国で唯一の小中高一貫校である。そのため、広報部がSSH部と一体となってSSH事業を柱とした周知活動を展開している。本校には「池田のSSHに魅力を感じて入学した」という小中高の児童・生徒が多数おり、今後もそうした入学者を増やしていくことが、本校の発展につながるという考え方で、職員全体で事業広報に努めている。実際に、SSHを意識して入学した生徒の多くは、課題研究でも、学業でも高い成績を残して、理系の難関大学に進学している。

オープンスクール等では、理事長挨拶から科学研究と国際化の経緯と意義について語られ、中高生のプレゼンやポスターセッションもあり、卒業生もSSH体験を語り、さらに実験教室やサイエンスツアーも行われるといった一連の成果発信の場となっている。〔下表参照〕

1 主な広報活動のためのイベント

時期	イベント名	形式	対象	内容等	参加数
6月	オープンスクール	集団	池田小児童・保護者	IRT発表/理科実験体験/SSHポスター発表	40組 70名
7月	私立中高フェア	個別	小中学生・保護者	県内私立中高全体のイベント 会場：城山ホテル鹿児島	61組 120名
	夏の学校見学会	個別	小中学生・保護者	学校・入試説明/授業見学/施設案内/5日間実施	39組 80名
8月	サイエンスフェスタ	集団	小中学生・保護者	理科実験体験/SSHポスター発表/課題研究紹介など	55組 120名
9月	学校説明会 in 沖縄	集団	小中学生・保護者	学校・入試説明/SSH活動紹介	23組 40名
	オープンスクール	集団	小中学生・保護者	IRT発表/理科実験体験/SSHポスター発表	56組 120名
	塾説明会①	集団	県内塾講師	IRT解説/SSHポスター発表	30名
10月	塾説明会②	集団	県内塾講師	IRT解説/SSHポスター発表	17名
	学校・入試説明会①	集団	小中学生・保護者	中学生自由研究発表/SSHポスター掲示	53組 120名
11月	学校・入試説明会②	集団	小中学生・保護者	中学生自由研究発表/SSHポスター掲示	55組 120名
12月	個別相談会	個別	小中学生・保護者	学校・入試説明/授業見学/施設案内/3日間実施	16組 30名



2 SSHに関わる広報活動基本方針(職員研修で使用)

- (1) SSHによる国際性ある科学系人材育成が本校の理念であることを、全職員で県内外の小中学生、中学生、高校生、教育関係者、保護者および官公庁、企業、大学等に対面やオンラインで広報周知活動を展開する。
- (2) 小学校・中学校・高校では全校体制で課題研究を行い、高校は高い実績を残しており、それが将来の社会で活躍する次世代型の資質・能力を育成することを周知する。
- (3) 中学校においては自由研究発表会など既存の活動に加えて、課題研究『サイエンスコミュニケーションプログラム(旧IRT)』の活動内容を周知する。
- (4) 本校の国際科学コンテスト『グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”』を、国内の全SSH校・理数系一般校、県内小中学校、および国外数ヶ国の高校に周知する。また、その意義や成果についても周知を図る。
- (5) 英語プレゼンを実施するなどSSH事業を通じた「国際化」に努め、小中でのケンブリッジ英検や年間10回程度行っている対面やオンライン国際交流について周知する。

3 成果及び展望と課題

オープンスクール後のアンケートで、「池田の魅力は?」という質問に「SSH」という答えは、昨年度が84%、今年度は88%である。県内ではほとんど周知されている。今後はSSHを経験した卒業生が、社会でどのような活躍をしているのかを追跡調査をし、今まで以上に情報発信して、「SSHの成果」の部分をもっと詳しく広報していきたい。

Ⅱ グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”(GSA)による普及

1 概要

SSH校として地元鹿児島で国際科学コンテストを開催し、国内外問わず、相互啓発による小学生・中学生・高校生の科学に対する意識の醸成を目指す。千葉工業大学と本学園との共催であり、今回で6回目を迎え、日本語・英語・対面・リアルハイブリッド開催で、参加は最多の81チームであった。また、SSH校以外の一般校の参加もあり、国内は沖縄から北海道、国外は、フィンランド等4か国11チームが参加した。協賛企業は11社、審査員は全国から22人、最高賞は文部科学大臣賞で、人気アニメに掲載されるほど周知が図られている。

2 今年度の広報周知の取り組み

特に小中学校については、鹿児島県理科教育研究協議会長の許可をいただき、「鹿児島県・理科に関する研究記録展」の入賞者へ、「お誘い状」を関係小学校に郵送した。複数件の参加や視聴の希望があり、鹿児島県の小学生・中学生の刺激となり、SSHを知る機会となるので、次年度以降も、早期に入賞者への案内を行いたい。

【GSAで発表する小中学生】



3 成果と展望・課題

成果は、アンケートで「研究の役に立った」が97.3%、「研究の質は高かったか」は94.6%であり、満足度の高い大会となった。

また、多くの方々から評価される質の高い大会となるよう、創意工夫をしていきたい。

【参加者アンケートにおける自由記述欄の一部】

・高校生の皆さんが、研究の基本を守り、身近なものにどのようにアプローチしていくか発表を聴くことができるとてもためになりました。・小中学生を受け入れている点、ゲスト及び審査員が充実している点が良かったと思う。・この度は、お誘い状をいただきありがとうございました。大会を通して、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。また、たくさんのお場者の方々のレベルの高い素晴らしい発表を聞くことができ、とても勉強になりました。発表に関しては、審査員の先生方から質問やお言葉をいただくことができ、とても嬉しく、また勉強になりました。来年も参加させていただけるよう、これからも勉学に励みます。

Ⅲ HPやメールによる普及と展望

1 取り組みと成果

本校HPはSSH校らしいデザインで、アクセスするとすぐSSH校であることが分かるように工夫している。また、過去の成果物(科学英語のテキスト等)や活動の紹介なども、できるだけ映像もまじえながら、紹介している。日々の活動や成果を順次更新して公開している。また、テレビや新聞などの報道機関の記事やニュースも、本校に興味を持った方々が、すぐアクセスできるように対応している。また、海外交流を推進したり、海外からも生徒を受け入れたりしていることから、必要な個所には英語による説明を加えている。

また、校内普及では、小中高生の保護者・職員の9割が参加している安心・安全メールを活用している。SSHの大会参加の広報や、SSH関係の全国大会などで上位入賞した際には、決勝等の動画は、安心・安全メールで紹介・配信して、加入している全保護者や全職員が、見られるように工夫している。また、学校内外での県外高校との科学交流などで動画を配信する場合も、本メールで紹介・配信して、最初から最後まで視聴できるように努めている。保護者にも大変好評である。

【本校のホームページ画面】



2 展望と課題

課題については以下の3点である。

- (1) HPのアクセス数を検知できるようにすること。
- (2) 第IV期テーマ(小中高一貫)を踏まえた全面的な更新が必要であること。
- (3) 公開すべき小中高の成果物及び新しいカリキュラム等が多く存在するので、公開すべき場所を作成する必要があること。

展望については、上記課題を解決するためにHPの全面改善が必要である。このことについては、すでに広報部にシステムに長じたスタッフがおり、準備をしている段階である。新しいHPは来年度5月・6月をめどに完成することとしているが、以下も加えて進めることとしている。

- (1) 目次を一番見やすい場所につけること。
- (2) 全画面を英語でも見られるようにすること。

IV 2つの新しいコンソーシアムの形成による普及

1 概要

令和6年度・7年度は、本学園が中心となって、SSH校による以下の2連絡会(情報交換会・学習会)を立ち上げる予定である。一つは、中高一貫校で高度化と国際化を追求している4校による連絡会であり、一つは、私学と国立のSSH校のオンライン連絡会である。目的は職員の情報交換と生徒の交流である。

いずれもオンラインの連絡会であり、多忙化しないよう、大会等は実施しない。ただ、「中高一貫・国際化」と「法人SSH・マネジメント」という新しいキーワードで相互の交流が活性化することにより、新しい視野や考え方も交換できるとともに、連携校としてSSH事業を普及できる強みになると考えている。

2 SSH4地区4中高一貫校オンライン連絡会(関係校相互承認済み・令和6年度4月設置)

(1) 対象校 日本の北部・関東・近畿・南部から各1校、関係性の深い4校とする。

(北部地区)札幌市立札幌開成中等教育学校／(関東地区)横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校

(近畿地区)国立大学法人奈良女子大学附属中等教育学校／(南部地区)学校法人池田学園池田中学・高等学校

(2) 趣旨 中高一貫校における効果的かつ高度な科学系人材育成に関するオンライン交流

3 法人SSH校オンライン連絡会(仮称・今後設置予定)

北海道から九州にいたるSSH私立高校・国立の独立行政法人の高校が、それぞれの学校経営の上でどのようにSSH事業を生かしているかについて、相互に情報交換をし、生徒交流をすることによって、運営の方法や知恵を相互に交換する。これも、SSH事業の普及につながるものである。

V 鹿児島県SSH校連絡協議会による普及(幹事校として)

鹿児島県の公私SSH校5校による連絡会であり、相互に情報交換や学習会をしながら、SSH校運用の円滑化や活性化を図ってきた。また、年に一度、5校でプレゼン交流をする大規模の大会「鹿児島県SSH交流フェスタ」を実施している。6年前から開始したが、全国に呼び掛けて、県内外からも多数参加があることから、鹿児島県のSSH活動の普及の中心となっている。

この連絡協議会は本校職員が発起人となって設置してから、来年度が8年目である。

折しも、本学園が会長校・幹事校となることから、協議会での連絡は簡易にして、学習機能と県外連携の強化を図り、さらに県内一般校への普及について議論と実効の場としたいと考えている。県内SSH事業の普及の在り方については、教育外部の知恵も借りたい。

【県交流フェスタの様子】



VI 全国SSH事業の充実と普及への協力体制

本学園は、青少年の教育について、他校や他機関と広く連携して公教育に担おうとする利他の気風がある。国際科学コンテストGSAも、その理念を踏まえて、地域や国内外の子どもたちのために構想され、開催されている。学園理事長も自ら多方面の人道支援に尽力するなど、社会貢献に余念がない。

そういう意味で、本学園は管理職が身を以て授業や課題研究等の指導に当たることとしており、公私を問わず、SSH校等他校からの教育要請があれば、私を構えず、充実と普及に努めている。

1 SSH指定校校長等交流会への協力

令和4年度にSSH指定校校長等交流会が開催され、前年度のSSH情報交換会で発表した本校職員の発表を、より深く聞きたいと、発起人から学園に依頼があった。学園の積極的な協力により、以下の交流会が4地区で、オンラインにより開催された。

【南地区】6月14日(火)／【東地区】6月16日(木) 【中地区】6月21日(火)／【東地区】6月23日(木)

SSH指定校学校運営について(話者 池田中学・高等学校副校長)／質疑応答／研究協議

2 SSH校運用等の協力および産学官連携の推進

また、県内外から本校職員へSSH運用等に関わる指導助言の依頼があるが、学園の協力体制により、多様な運用改善や課題研究の助言にあたっている。また、学園には複数の大学や研究機関から連携要請があり、積極的な交流を図り、事業の普及に努めている。

3 鹿児島大学単位互換制度の九州各県への周知と普及

鹿児島大学の高校生向けの単位先取り履修制度は、理学部と本校職員が協議しながら、1年かけて実現したものであり、協定を結ばない簡易な制度になっている。本学園の生徒たちも毎年、必ず参加している。大学から九州各県への紹介を依頼され、九州SSH担当者交流会等で周知した。またその折に要望のあった高校や管理機関等にも紹介した。この周知・普及により佐賀大学も制度を創設し、九州では各県での高大接続が推進した。